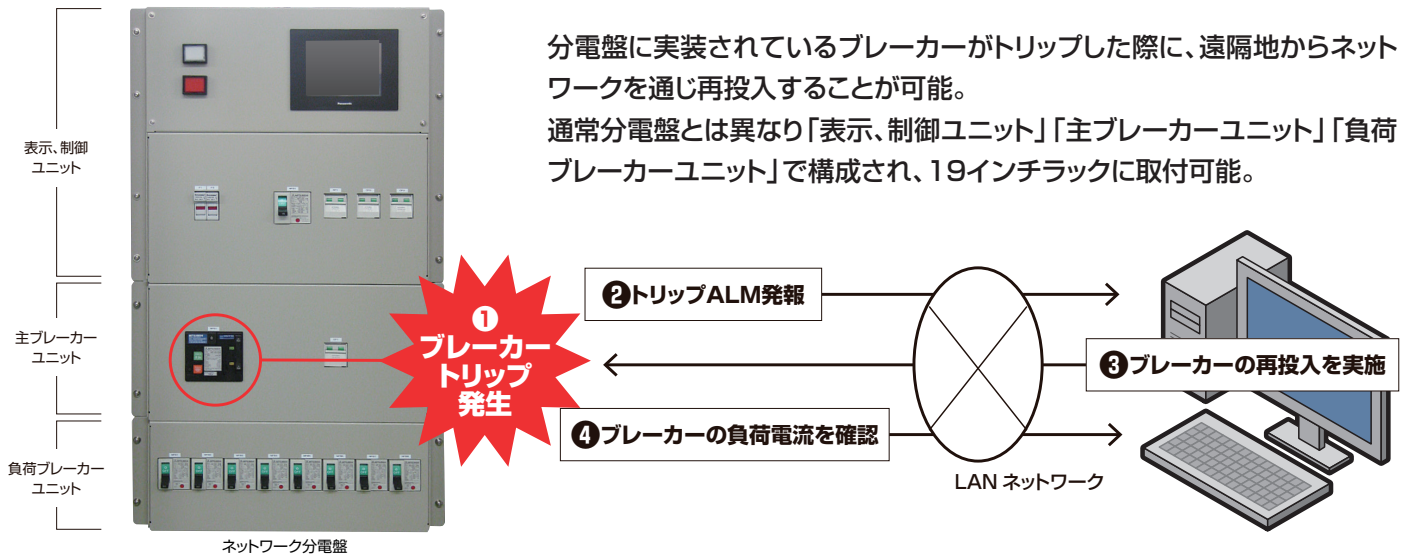


遠隔地にある分電盤の状態をWeb上で確認 ブレーカートリップ発生時にはON・OFF制御



分電盤に実装されているブレーカーがトリップした際に、遠隔地からネットワークを通じ再投入することが可能。

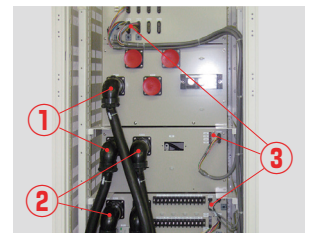
通常分電盤とは異なり「表示、制御ユニット」「主ブレーカーユニット」「負荷ブレーカーユニット」で構成され、19インチラックに取付可能。

特長

- ①分電盤の入力電圧・電流を測定しWeb上で確認できます。
- ②ブレーカーが再投入できたかは、負荷電流値で確認できます。
- ③トリップ時以外は操作できません。
- ④EIA規格(19インチ)ラックへ実装可能です。
- ⑤主ブレーカー数、負荷ブレーカー数の増減が可能です。

接続イメージ

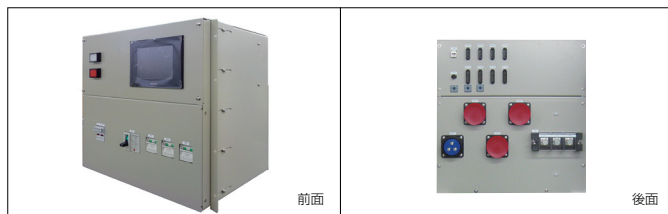
- ①電源コネクタ (制御、表示ユニット～主ブレーカーユニット)
- ②電源コネクタ (主ブレーカーユニット～負荷ブレーカーユニット)
- ③通信コネクタ



• コネクタ接続のため、有電圧での接続が可能です。
• 誤接続できないコネクタ形状になっています。

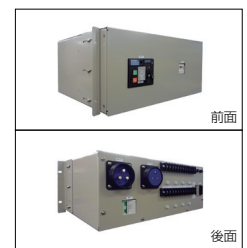
表示・制御ユニット

- ①電流計、電圧計、受電装置、ALM表示部を実装した入力盤です。
- ②主ブレーカーユニットの「ON、OFF制御」「トリップALM監視」及び、「電圧、電流、電力、電力量」の確認ができます。
- ③負荷ブレーカーユニットの「トリップALM監視」と「電流」の確認ができます。
- ④主ブレーカーにて最大4台。負荷ブレーカーにて最大56台。合計60台のブレーカーを監視可能。



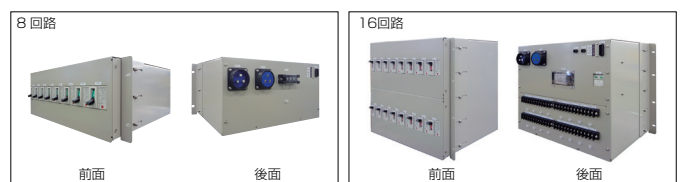
主ブレーカーユニット

- ①通常の分電盤の主幹ブレーカーに相当します。
- ②直接負荷を接続可能。
- ③負荷ブレーカーユニットに接続可能。
- ④遠隔(Web)及びタッチパネルからの「ON、OFF制御」「トリップALM監視」、「電圧、電流、電力、電力量」の確認ができます。
※「ON、OFF制御」は、ブレーカーのトリップ時のみ有効。
• 最大4台までブレーカーの監視、制御が可能です。
• ブレーカーの最大容量は、100AFです。



負荷ブレーカーユニット

- ①主幹ブレーカーからの分配用ブレーカーユニットとなります。
- ②ブレーカー数量が8回路ユニットと16回路ユニットの2種類があります。
- ③遠隔(Web)及びタッチパネルからの「トリップALM監視」と、「電流、電力、電力量」の確認ができます。
※電力及び電力量は、主ブレーカーユニットの電圧値にて演算します。



• 負荷ブレーカーの監視最大数は56台です。
• 最大容量は、30AFです。

機能一覧	主ブレーカー	負荷ブレーカー
ON、OFF制御(トリップ時のみ有効)	○	—
トリップALM監視	○	○
電圧(Web及びIPより監視)	○	—
電流(Web及びIPより監視) ※1	○	○
電力(Web及びIPより監視) ※2	○	○
電力量(Web及びIPより監視) ※3	○	○

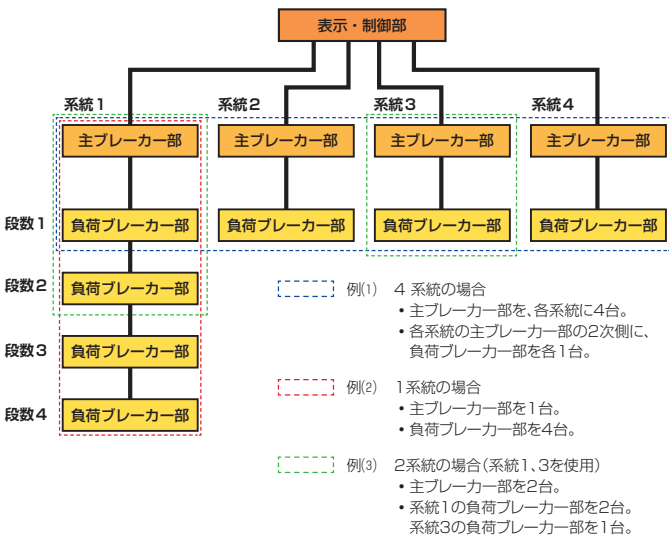
※1: 負荷電流値 ※2, ※3: 主ブレーカーユニットの電圧値を使用

ネットワーク分電盤

接続構成

①構成

- ① 表示・制御部 : 1台(必須)
 - ② 主ブレーカー部 : 最大4台(各系統ごとに必要)
 - ③ 負荷ブレーカー部 : 最大4台
- ※必ず、主ブレーカー部の2次側に接続。

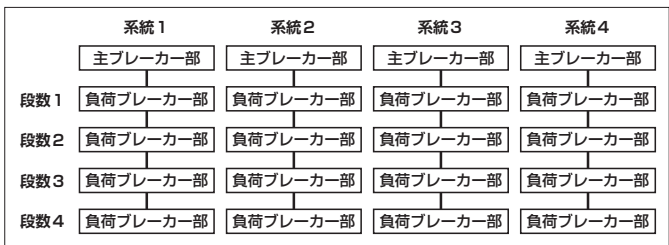


②ロケーション、回路数の設定

- ① 各ブレーカー部の接続位置を、ユニット裏面のロータリースイッチにより設定します。
- ② 負荷ブレーカー部は、負荷が接続される回路数を設定します。

ユニット名称	系統番号 (RSW1)	接続段数 (RSW2)	負荷回路数「十の位」 (RSW4)	負荷回路数「一の位」 (RSW3)
主ブレーカー部	必要	不要	不要	不要
負荷ブレーカー部	必要	必要	必要	必要

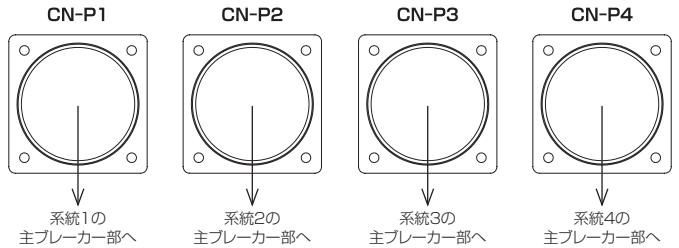
- RSW1 : 系統番号(設定値=1~4)
- RSW2 : 負荷ブレーカー部接続段数(設定値=1~4)
- RSW4 : 負荷回路数「十の位」(設定値=0又は1)
- RSW3 : 負荷回路数「一の位」(設定値=0~9)



- 注1) 設定を重複すると、正しい動作・データ収集が行えません。
- 注2) 主ブレーカー部は系統番号のみを設定。その他の設定は無視されます。
- 注3) 負荷ブレーカー部は、系統番号、接続段数、そのユニットへ接続される負荷の回路数を設定します。

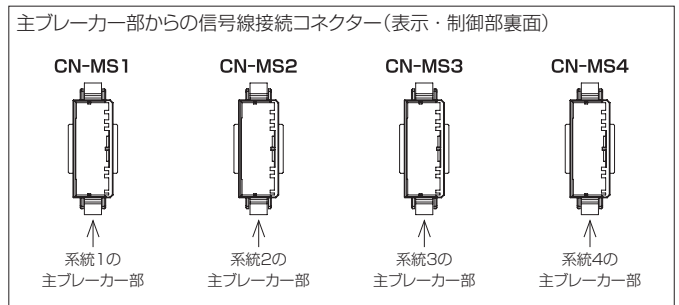
③電源の接続

- ① 表示・制御部から各主ブレーカー部への電源線は、前述2項の設定に従い CN-P1~CN-P4に接続します。
- ※設定の通りに接続されなければ、正しい動作・データ収集が行えません。

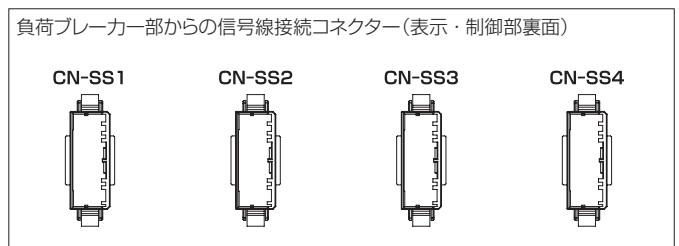


④信号線の接続と計測ユニットのアドレス設定

- ① 各主ブレーカー部からの信号線を、3項同様に設定に従い CN-MS1~CN-MS4へ接続します。
- ※設定の通りに接続されなければ、正しい動作・データ収集が行えません。



- ②-1 負荷ブレーカー部からの信号線を、CN-SS1~CN-SS4のいずれかに接続します。
 コントローラはこの信号線により、前述2の設定及び負荷ブレーカー部の状態を読み込みます。



- ②-2 上述②-1項の接続に従い、負荷ブレーカー部に実装されている計測ユニットのアドレス設定を行います。

負荷ブレーカー部を接続したCN	計測ユニットのアドレス
CN-SS1	21
CN-SS2	22
CN-SS3	23
CN-SS4	24

※接続の通りに設定されなければ、正しいデータ収集が行えません。

○製品の価格等については、別途お問い合わせください。 ○本カタログに記載の内容は、予告なく変更する場合があります。